

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の多様性(ダイバーシティ)を尊重し、個性や能力を伸ばす教育課程を編成する。 ○生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を実現させる。 ○生徒の主体的な学習を充実させ、学力を育成する。 ○授業改善の取り組みを充実させる。 ○高大の接続を意識した高大連携を模索し、新テストに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本から発展的内容まで、多様性を尊重した教育課程を編成する。 ○自学自習を重視した学習指導により、希望進路の実現に向けて学力向上を図る。 ○組織的な研修・研究を通して、授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)基礎基本から発展的内容まで、進路指導と連携した教育課程の整備と検証を行う。 (2)「朝学習」「週末課題」「スタディジョギング」(試験前の放課後学習)などの実施を通じて、自学自習の習慣を身につけさせる。また、「緑の風」(学務通信)を通じて、学習方法や大学受験等に関する情報提供を積極的に行う。 (3)夏期講習や補習を通して、苦手科目の克服や得意科目の学力向上を図る。 (4)教科間連携や授業改善に係る校内研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒が進路実現に向けて選択しやすい教育課程の整備と検証ができたか。 (2)「朝学習」「週末課題」「スタディジョギング」、学務通信などによって、学力向上に一定の効果がみられたか。 (3)夏期講習や補習の参加者が増加したか。 (4)教科を超えた研修・研究により、更に工夫された授業が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)3年次選択科目に「倫理」を新設、教育課程の充実を図った。 (2)1、2年次に「朝学習」「週末課題」「スタディジョギング」を実施。学力向上の顕著な効果は見られないが、自学自習の習慣づけに一定の効果は見られた。 (3)夏期講習の参加者がわずかながら増加した。 (4)教科を超えたチームを作り、授業改善研究を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)大学入試の新制度への対応の検討が始めることが課題である。 (2)2年次のスタディジョギングのあり方を検討することが課題である。 (3)夏期講習の募集時期をもっと早める必要がある。 (4)校内外の組織的授業研究を発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を終え、モチベーションが落ちて入ってくる入学生の気持ちをいかに上げていくかが大事、先生たちがうまく関わっている。 ・「朝学習」などは直ぐには高い成果は出ないが続けることにより徐々に成果が出る。続けることが大事。 ・夏期講習については生徒にとって興味を引く魅力あるテーマとなっているか検証する必要があるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)科目を新設するなど、教育課程の充実を図った。 (2)1、2年次に「朝学習」「週末課題」「スタディジョギング」を実施。自学自習の習慣づけに一定の効果は見られた。 (3)夏期講習の参加者が増加した。 (4)教科を超えた授業研究によって、より良い授業が増えた。組織的な取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)大学入試の新制度への対応の検討を始めることが課題である。 (2)2年次のスタディジョギングのあり方を検討することが課題である。 (3)夏期講習の募集時期をもっと早める必要がある。 (4)校内外の組織的授業研究を発展させる。
2 生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な相談体制を整備する。 ○生徒一人ひとりの個を捉えた支援体制を確立する。 ○グローバル社会を生きる能力の獲得と自立する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりへのきめ細かな指導を充実させ、より社会性を育む学びを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)組織的な相談・支援体制を充実させ、生徒に寄り添う丁寧な支援をする。 (2)服装・頭髪等の身だしなみ、校内美化や時間を大切にしている指導を続け、規範意識を更に高める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)相談・支援体制を充実し、職員間での情報共有化による組織的対応及び効果的な支援ができたか。 (2)生徒の規範意識をより高められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)学年会での情報共有及び、教育相談担当者ミーティングとケース会議により、組織的対応・支援を行っている。 (2)生徒会行事を中心に、より主体的な活動を促し、自らが規範意識をもって計画・行動できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒・保護者が気軽に相談できるような体制作りと、教育相談担当側の雰囲気作りも大事。 ・組織的な情報共有と支援は評価できる。次年度への引継ぎ体制も必要。支援後の見守りも大切、そのような体制作りを。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教育相談体制は校内連携、組織的な対応の立て直しが必要である。 (2)服装、頭髪、遅刻、校内美化については粘り強い継続的な指導により成果がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教育相談担当者会議を円滑に運営し教育相談体制の基礎を確立していきたい。 生徒の抱える問題を担任や担当教諭だけでなく情報の共有化をはかり、当該学年または全職員による支援体制を構築していく必要がある。そのために教育相談コーディネーターの連携を密にし、教育相談担当者会議やケース会議の整備を行う。 	
3 進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に進路を選択できるような支援体制の確立。 ○シチズンシップ教育の取組みを充実させ、生徒が積極的に社会参加するための能力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来を見通した自己のあり方を考え、実現に向けての様々な支援を充実させ、高い志望を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)進路指導グループと学年が連携し組織的な面談指導を実施し適切な進路目標の設定とその実現に向けた支援を充実させる。 (2)進路ガイダンスを段階的に実施し、生徒が主体的に進路を選択し決定できる力を育て、質の高い進路実現を図る。 (3)各学年でシチズンシップ教育を実施し、自主的に社会参加しようとする意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)面談指導に積極的に取り組み、進路意識を向上させることができたか。 (2)進路ガイダンスが生徒の進路選択にどう役立ったか。 (3)シチズンシップ教育の効果として社会参加への意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)スタディサポート等の結果を踏まえ、各学年の重点課題を設定し、適切な面談指導が実施できている。 (2)3年間を見通した段階的なガイダンスが実施できている。 (3)地域ボランティアを中心に、自主的な社会参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)面談時間の確保が課題である。 (2)早い時期に将来の目標を持たせるための手立てが必要。 (3)より多くの生徒が社会参加できるよう支援策を企てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シチズンシップ教育は社会生活における意識の向上につながり高く評価できる。 ・将来のあり方を考え、自己実現に向けて今、何をなすべきかを考え、取組ませることが大切。そのような体制づくりを。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)面談週間における各回のねらいと重点課題を踏まえて、適切な指導を実施することができた。 (2)自己の進路実現に向けて生徒の意識も向上し、成果も上がってきている。 (3)意欲的に社会参加する生徒が増えた。自主的に参画させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)(2)生徒に早い時期に目標を持たせるための効果的な指導を検討していく。 ‘(3)生徒個々の関心や意欲に沿った社会参画への支援を促す。

4	地域等との協働	<p>○コミュニティ・スクールを活用し、地域との協働を図り、生徒の生きる力を育む。</p> <p>○地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。</p>	<p>○地域の教育力を活用し、生徒一人ひとりの地域に貢献しようとする意欲を向上させ、自主的に行動できるよう支援する。</p>	<p>(1)地域の教育力を活用し「総合的な学習の時間」を中心に表現活動や社会貢献活動を実践する。</p> <p>(2)委員会や部活動による社会参加活動を活性化させる。</p>	<p>(1)地域の人材の活用により社会に貢献しようとする生徒が増えたか。</p> <p>(2)委員会や部活動による社会参加活動が活性化されたか。</p>	<p>(1)部活動や委員会活動を中心に、貢献意欲が向上している。</p> <p>(2)地域の防災訓練やイベントへの参加、施設訪問等は、生徒会や部活動で継続して実施している。</p>	<p>(1)所属を越えて、個々の生徒が積極的に貢献しようとする意欲を高めさせる。</p> <p>(2)自主的な行動に結びついているかは見えにくい。</p>	<p>・地域との協働や連携は、生徒が社会の一員であるという意識向上につながる。</p> <p>・たくさんの経験をすることで自分の役割や将来像が見えてくる。多くの経験を積ませて欲しい。</p>	<p>(1)社会に貢献し自分の将来像に繋げようとする生徒が増えた。自主的に行動する生徒数を増やしたい。</p> <p>(2)委員会や部活動による社会参加活動が活性化された。</p>	<p>(1)多くの社会参加活動の経験を積み、自分の役割や将来像に繋がれるように支援する。</p> <p>(2)より多くの生徒に関りをもたせられるよう窓口を広げる必要がある。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○PDC Aサイクルに従い、グループ、学年、教科が教育活動を常に見直し改善する。</p> <p>○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の役割を明確化し、機能的に活用する。</p> <p>○学びを支え、安全で安心な教育環境の整備に努めるとともに事故・不祥事防止の徹底を図る。</p>	<p>○グループ、学年、教科が常に課題意識をもって積極的に改善に取り組んでいくとともに安全、安心で開かれた学校づくりに取り組む。</p> <p>○コミュニティ・スクールの役割と機能を整理し実行力あるものにする。</p>	<p>(1)課題改善意識をもって教育活動に取り組み、アンケートなどを積極的に活用、分析し、効果や結果の検証を行う。</p> <p>(2)コミュニティ・スクールの各部会の役割と機能を整理し実行力を向上させる。</p>	<p>(1)アンケートなどの結果で効果がみられたか。課題改善に結びつけられたか。</p> <p>(2)コミュニティ・スクールが機能的に働き生徒の活動支援などに結びついたか。</p>	<p>(1)課題改善意識をもって取り組んでいるところも見えるが、職員全体に浸透はできていない。</p> <p>(2)講演講師やゲストティーチャー等、地域の教育力により、生徒の学力向上につながった。</p>	<p>(1)より有効なアンケートの作成を行い、アンケートの活用、分析、効果の検証を全職員をもって行う。</p> <p>(2)継続した指導により、生徒の活動をより活性化させる。</p>	<p>・生徒や保護者のアンケートを真摯に受けとめ今後に生かしていこうとする姿勢は素晴らしいと思う。</p> <p>・体系的、計画的な運営を継続することで生徒のみならず保護者や地域からも指示、信頼される学校となる。継続が大切。</p>	<p>(1)効果的な教育活動について検証し、課題解決に向けて取り組むことができた。組織的な態勢づくりが必要である。</p> <p>(2)コミュニティ・スクールの役割と機能を整理した。継続し活性化させる重要性を確認した。</p>	<p>(1)全職員が課題を共有し、改善に向けて組織的に取り組めるようにする。</p> <p>(2)これまでの地域との協働の実績を継続し、学校と家庭・地域との取組をさらに活性化させる。</p>